

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●田村 賢治 (たむら けんじ)さん

昭和5年生まれ 84歳

川崎市高津区梶ヶ谷在住



#### ◆ご自身や代々の家のことなどを

私はね、この家の四代目になるんです。梶ヶ谷・野川・馬絹・土橋・有馬の5村あって、ここは梶ヶ谷村。当時、村には51軒が暮らしていました。

初代が本家から分家した時、娘を一人連れて来てね。以来、養子をとったりなんだけりしながら家を守って、代々この家に住んで私まで続いています。

私は25歳で結婚して、息子と娘が一人ずついてね。息子は大学出て、もうすぐ定年ですね。孫が英語の教師やってるんですよ。

この家も昔は草ぶきの家だったんですよ。電灯も家にひとつぐらいしかなくてね。ガスもなかったし、炊事はかまどで炭や薪を使ってました。水は井戸から汲む。お風呂にも井戸から汲んで運んでました。風呂桶は木でできたもの。小学校のころから風呂焚きを手伝ってましたね。

庭には水が湧く池もあったんです。でもカモがきてね、池の金魚を全部食っちゃったんで埋めちゃいましたよ(笑)。

#### ◆ご近所付き合いはどんなでしたか？

人の心がね、あったかかったよね。縁側やかまどの周りで茶飲み話をしたりね。

餅つきなんかも近所どうしで手伝いあってましたよ。せいろで蒸してねえ。味噌なんかも自分ちで作ったのを分けあってましたね。

ずーっと青年会の仲間6人くらいと獅子舞をやってたんだ。昔から受け継がれてきた獅子舞(注①)でね。でも今はできる人が2人しか残ってないんだよ。私は太鼓をやってたんだけどね、7年くらい前に終わりになっちゃったよ。人がいなくちゃ続けられないよね。仕方ないよねえ。

そのころの仲間とは一緒に旅行もよく行ったなあ。

町内のお役目もいろいろやりましたよ。町内会長を7年。民生委員を9年。PTAは

父の関係で会長は遠慮して副会長をやらしてもらいましたね。

近所付き合いとは関係ないけれど、梶ヶ谷には「屋号」のつく家が少ないね。野川の方は「屋号」のつく家が多いよ。

昔はね、村をまとめる人がいたけれど、今はそういう人がいなくなったよね。

### ◆子どものころの遊びは？

兵隊ごっこだな。近所の仲間が集まってよくやったよ。縄跳びとか野球もやったなあ。正月には凧揚げやコマ回しね。女の子は羽つき。

私が小学校のころ村の青年会がね、演芸大会をやってくれてましたね。前の畑で「白浪五人男」だとか「国定忠治」とかのお芝居をやってくれるの。娯楽の少ない時代だったからね、楽しみだった。

おやつはね、私らが子どものころはお菓子なんてなかったからね、“ぼったらやき”って言ってね、小麦粉を焼いたものを作ってくれましたね。

青年会のころは卓球もよくやったよ。あと駆けっこね。県大会の1500mの予選に出たことがあったよ。補欠からの繰上りだったけどね(笑)。

### ◆学校について聞かせてください

尋常小学校に6年間、高等小学校に2年間通いました。高等小学校のうち1年間は

青年学校っていうので、軍事教練をやりました。木刀なんか振り回してね。

私の2年上の人までは兵隊に行きました。そのころの友達で残っているのは、今2人だけになりました。

学科は、地理が好きでね。地図で見たところに行ってみたくて、70歳ぐらいまでに日本国内も外国も随分行きましたよ。アメリカでもヨーロッパでも地図で見たところに自分が立ってるってことや、初めて行ったその土地のことを行く前から自分が知ってたってことが楽しくてね。スイスで山に登ったりもしましたよ。

あと音楽も得意でした。ハーモニカが得意でね、そのころ覚えた川崎市歌は今でも吹けますよ。

学校には弁当を持っていきますでしょ。そのころのご飯は白米と麦と混ぜて炊くのが普通でしたがね、私の弁当にはいつも白米ばかりが入ってました。麦ってのは混ぜて炊くと上のほうに浮いて集まってるでしょう？母が下の方の白米をすくって入れてくれてたんですね、きっと。思い出すとありがたくてねえ。

### ◆農業のことなどを

耕運機みたいな機械が普及しはじめたのは、昭和30年ごろからだだったな。それまではたいていのことは手でやってましたよ。で、できた作物は自転車でリヤカー引っ張って売りに行ってましたね。多摩川の向こ

うとか、馬絹の川端にもいったなあ。自転車でもどこでもいったよ。新宿までいったこともあった。

昭和32年にオート三輪を買ったね。車の免許は昭和31年、26歳の時にとったんだ。六角橋へ行ってね、三度目でやっと合格したよ(笑)。

畑はね、今も40アールあってね、主に小松菜を作っています。小松菜を年に5~6回も作ってね。冬でも作りますよ。小松菜はね霜にあたると甘くなるんだ。

もう売ってるわけじゃなくて、知り合いに分けたりしてるんだけど、とても喜ばれてね。筍を朝掘ったのなんか美味しいの。

優良農家として何度も表彰していただいて、賞状いっぱいいただいて、まとめて筒に入れてます。

私はね、働いているのが好きなんだ。身体が丈夫だから、おかげでこうやって畑仕事をできる。ありがたいことですよね。

#### ◆戦時中や戦後の様子は？

ここらへんはB29の通り道になっていて、よく相模湾のほうから編隊が飛んできてたね。虎の門病院のところが兵舎になっていて、そこに陸軍62部隊があったんだ。

グラマンがきて機銃掃射されたこともあったなあ。東京が赤く燃えてた光景も覚えてますよ。

空襲の激しいときには牛や馬を木の陰に隠したもんです。防空壕もあるにはあった

んだけどねえ、子どもには危機感がないというか、防空頭巾をかぶって走り回って遊んでましたよ(笑)。

疎開はしなかったです。むしろ受け入れる方でしたね。人だけじゃなくて、家財なんかも預かってましたね。

終戦の時は15歳だったな。私はね、終戦後は世の中が明るくなった、楽しくなったって感じましたね。

それまではすべてが軍国主義で、ゆとりがないっていうか、いつもピリピリしてましたもの。

教育だってスパルタ式だったしね。できないと家に入れてもらえなかったんだよ。

それが、アメリカ兵がきて、ニコニコ笑いかけてくれてチューインガムなんかくれるんだ。親には食べちゃいけないって言われましたけど、食べた。うまかったよ(笑)。

日本兵なんてね、家の畑からスイカ持ってっちゃったんだよ。

#### ◆趣味や生活のことなど

何しろ旅行が好きだったから、畑が暇なときはいつも旅行してたね。国内だと言っていない県はないねえ。仲間とバイクで行ったり、宮城や青森にはブルーバードを運転して行ったよ。50代のころだったかな、仲間10人で仙台の塩釜港から岩手の宮古まで船の旅もしたなあ。宮古でパチンコして大当たりしたんだ(笑)。

外国もね、たいていのところは行きましたよ。英語もできないけど、言葉を使わなくても何とか通じたりして面白かったな。

家内は国内だと一緒に行くんだけど、外国には行きたがらなくて、家で留守番してたよ。

伊豆で海釣りをしたり、後樂園で巨人-阪神戦を見たり、いろんなことをしましたね。テレビを買ったのはね、皇太子のご成婚の時は近所で見せてもらって、その翌年だから昭和35年に買いました。

昭和39年のオリンピックはチケットが買えないからテレビで見ました。

梶ヶ谷駅ができて電車が通ってもあまり乗ることはなかったね。でも便利にはなりましたよ。新宿や中野に親戚がいるから、正月の野菜を届けに行ったり、子どもたちは渋谷に映画を見にいったりしてましたね。

運転免許は今年の5月に返却しました。

まあ、今もこうやって毎日畑仕事ができる、おかげで元気でいられてありがたいと思ってます。

(平成26年8月1日実施)

## 注① 梶ヶ谷の「獅々舞」解説

梶ヶ谷神明社に伝わる資料より

(筆者、作成時期不肖)

これからご披露する梶ヶ谷の「天王様の獅々舞」は、約百六十年程前の「天保四年の飢饉」のとき、伝染病がはやり大人子供の別なく大勢の人が死にました。

これを心配した村田重五郎という行者が、梶ヶ谷にだけは伝染病をいれまいと、上方から「厄払いの獅々」を手に入れてきて、村中を舞い歩いた。そのためか、奇跡的に梶ヶ谷は伝染病から免れたと云う。

医学も衛生も知識もなかったそばく私達の先祖は、只々救ってくれた獅々に感謝し「天王様の獅々舞」としてあがめまつり、毎年七月十五日の天王様のお祭りに跡継ぎが舞い、誕生前の可愛い赤子の厄を払ってもらい丈夫に育つよう村中あげて祈ったものであります。

神明社で舞うのは三十数年振りです。いろいろの事情で舞うことができませんでしたが、有志一同六十の老取に鞭うって奉納いたします。

舞は約四疋の獅々頭をあご棒一本で口(くち)にくわえて、後(あと)かぶりを舞う静かな「袖の舞」、鈴とごへいを手に厄を清める「鈴の舞」、悪魔を追払う勇壮な「狂い」、かわよきもある「ねむり」、そしてまた狂いにもどって、納めます。